赤面山

2015年10月4日

リーダー:山組/伊藤松雄　悠遊組/品川 弘

赤面山の山頂にて(10:26) ↑

那須岳の思い出と赤面山に登って　リーダー:伊藤松雄(山組)

今日10月4日の天気予報は晴れ。紅葉も見ごろだという。しかも心配をしていた参加者は定員に達し、また、休養中の松島さんも参加をするというから、嬉しさと、ワクワク感いっぱいでバスに乗り込んだ。

一時は参加者が減って、1人当たりの参加費が高くなるのでは、と心配をしたのだが、品川さんが悠遊組を担当することになったので定員になることができた。

遊友ハイキングクラブの会則に、「年に3回バスハイク的例会をおこなう」とあるが、今後は、リーダー全員で悠遊組のリーダーを担当してほしいと願っている。

さて今日登る山は、日光国立公園の北東端にある赤面山。紅葉時になると、山頂部が赤く染まるから赤面山と呼ばれているのだとか。はたして今日は、どんな表情を見せてくれるか楽しみだ。

バスは東北道最初の休憩を終えて、那須塩原ICにさしかかった。すると車窓には、田園風景と草原がどこまでも続く高原地帯が映ってきた。観光リゾートとして年間470万人も訪れる那須高原である。

この高原は、標高150mから500mと穏やかに傾斜した台地が続いて「那須野ヶ原」とも呼ばれている。

栃木県といえば、栃おとめに餃子、かんぴょうなどが有名だ。ところが、この那須高原での牛乳生産量と乳牛飼育は北海道に続いて第2位。

つまり栃木県は、牛乳生産量と乳牛飼育は本州第1位であり、またここでの米産は栃木県第1位と、那須高原は観光リゾートばかりではなく、日本でも有数な酪農王国になっている。

しかしこの那須野ヶ原台地は、火山灰や小石が多い地層(砂礫帯)で、地面を掘ればすぐに大量の小石が出て、雨が降っても水が地下に浸みこんでしまう「不毛地帯」だった。その「不毛地帯」がなぜに酪農王国になったのか、興味がわいてくる。

しばらく進むと、車窓右手に那須連峰が見えてきた。この那須連峰から青森県夏泊半島まで続く山並みは、奥羽山脈と呼ばれ、長さ500キロ、日本列島最長を誇る脊梁山脈である。多くの人々は、茶臼岳のことを那須岳と呼んでいるが、那須岳という山はない。

一般に那須岳と呼ばれているのは、茶臼や朝日岳、三本槍、南月山など5山の峰々の総称である。

休憩中、メンバーに説明をする伊藤会長(8：37)↓

さてバスは、那須SAで最後の休憩を終えて、日本4大そば処と呼ばれる白河ICを抜けて甲子高原に入った。

「あれが阿多多羅山　あの光るのが阿武隈川」と高村幸太郎が詠んだ、阿武隈川の源流域である。ブナの木が台地を覆い、多くの鳥獣が棲んでいる。帰路に「あっ、猿だ!」と叫んだように、猿軍団とも遭遇する、美しく豊かな原生林。

「えっ、あれがスキー場ですか!?」、ドライバーが絶句した。スキー場のレストハウスの窓や屋根は壊され、廃墟と化したかつてのスキーリゾート跡地。

「リゾート事業、観光産業によって大都市圏以外の地方を振興する」と声高々に成立したリゾート法。そのために巨大なリゾートマンション・ゴルフ場・スキー場などが建設された。しかし事業の多くは、このスキー場のように環境破壊と地方破壊の爪痕を残してしまった。

一方、「中国を世界経済中心国にさせない」と、オバマ大統領の思惑で進められたTTP。農水省の試算でさえ「食料自給率が13%までに落ち込む」といわれているが、リゾート法のように、酪農破壊と地域破壊につながるのではないのか、他国に胃袋をにぎられて自立国といえるだろうか、と、破壊されたスキー場、那須高原に放牧されている牛や馬などを見て、胸が痛んだ。

（次ページへ続く）

（前ページから続き）

して登山道は、ススキに囲まれたスキー場跡地を登っていく。多くのスキー場は土主体の斜面に対して、このスキー場跡地は那須野ヶ原台地のように石がごろごろして歩きにくい。加えて太陽の日差しをさえぎるものはなく、肌が痛くなる。

後ろを振り向くと那須高原が大きく広がっていた。よ～く目をこらえると、この高原が関東平野の北端にあることに気付かされた。

白河辺りから東北にかけては木々の濃緑（山々）が覆い、西の那須高原からは大平野になっている。

「白河以北一山百文」と蔑まされた東北だが、白河に「エミシはここより西に入るな」と設けられた白河の関。自然の地形をうまく利用してつくられた「関」なんだと、なぜか関心をしてしまった。

「うわ～っ、真っ赤な大きい実」と、鈴生りになったナナカマド。辺りには色づいた木々が現れて、山頂部は紅葉真っ盛りですよ、と語っているかのようだ。

登り切ったスキー場跡地からは樹林の中を進む。ところがこの樹林帯、小規模ながらも艶やかな姿を隠していた。

悠遊組（10：29）▲

多くの登山者は、足元だけに目を奪われて、周りを見ないで登ってしまうが、最低でも10歩あるいては、周りを見るようにしてほしい。すると今日のように、「うあーっ、綺麗!」と、見つけた木々たちの妖艶に酔いしれる仕組みを知ることができる。

人間に個性があるように山にも個性がある。その個性を見つけるのが山の醍醐味といえよう。

錦絵の樹林帯を後ろ髪引かれる思いで通りすぎると、今度は那須特有の紅葉が待っていた。緑のキャンバスに赤や黄が点描する紅葉絵画が大きく広がって、別世界に飛び込んだようになる。

あいにく甲子の山々は霧に隠れて姿を見せなかったが、品川さんら悠遊組が登っている中の大倉尾根や、朝日岳から鬼面山に延びる稜線には、緑の絨毯に木々が真っ赤に染まる絶景が広がっていた。

先に登っていた藤井さんが、赤面山の頂に戻るや否や「赤面山の赤い紅葉を見てきたぞ」と。どうやら赤面山の名の由来を見てきたようである。

以前に、北温泉から中の大倉尾根、三本槍ヶ岳～朝日岳～隠居倉～三斗小屋温泉～茶臼岳と歩いたことがある。そのときに見た紅葉や展望は目に焼き付いて離れない。だが、今日の紅葉も中々なものがある。

また、錦秋の山々を見ながらの昼食に、この上ない贅沢さを感じるのは私だけであろうか。

「来てよかったね」「こんなに美しい紅葉は見たことがない」「なんて綺麗なの」などの声を耳にすると、なぜだが嬉しさがこみ上げてくる。

思えば、ひざを手術して初めて登った山が茶臼岳と朝日岳だった。そのときに、「登れてよかったね」と、話しかけてきた妻の言葉に感極まったことがあった。10月10日に朝日岳に登った時は、突然雪が横殴りに吹き付けて、息子が頬かぶりをしたこともあった。また那須スキー場では、友人が岩場に転倒して頭から血を噴き出し、直滑降でパトロール隊を呼んで、救急車に乗って黒磯の病院にむかったことなど、様々な思い出が残っているのが那須の山々だ。

今回、赤面山に来るときに、多分、今回で那須の山々とおさらばだと思ってきたが、いざ赤面山の頂に立つと、今度は来るときはどのコースを歩こうか、と考えるようになっていた。

悠遊組（10：59）▲

悠遊組（11：04）▲

悠遊組（12：12）▲

赤面山の山頂にて（11：26）▲

赤面山の山頂にて--2（11：29）▲

下山途中（12：12）▲

赤面山の中腹の紅葉（12：40）▲

鮮やかな紅葉を背景に（12：41）▲

もうすぐゴール（12：53）▲

10月山行「赤面山」に参加して　戸邉茂雄

10月4日(日)、赤面山の山行に参加しました。赤面山(あかづらやま)は福島県と栃木県の境に位置し、那須連峰の朝日岳の北から東方に延びる支脈にある標高1701．1mの山です。山頂からは那須岳や甲子連山の眺めが見事です。スキー場跡からブナ林を抜けて展望の山頂を目指すコースが所要時間約1時間30分と手ごろなためか最も利用されています。「あかづら」とはなんともおもしろい名前ですが、その名の由来は分かりません。

朝5：45にせんげん台から6名、6：00に春日部から20名の合計26名がバスに乗車して出発しました。6：30に久喜ICから東北自動車道に入り、7：30に上河内SA、8：20に那須高原SAでトイレ休憩をし、8：40に白河ICで高速を降りて9：15に旧白河高原スキー場の駐車場に到着しました。

F井さんの音頭で準備体操をして9：30に登山開始です。今は使われてないリフトに沿った登山道をほぼ真っ直ぐに登って行きます。登山道は砂利道です。そして周りはススキだらけです。しばらく登ると紅葉が目に飛び込んできました。ナナカマドも真っ赤に色づいた実をたくさん付けておりました。途中から、赤面山の先にある前岳を目指して私を含めた7名が先を急ぐことになりました。スピードアップをして11：20に赤面山に到着しましたが、前岳まで行って戻るには時間が足りません。そこで男性4人だけ途中まで行って戻ってきましたが、お蔭で前岳側から見た赤面山の写真が撮れました。赤面山の頂上で昼食となりましたが、頂上は気温が低く寒かったので、急いでおにぎりを頬張りました。食事の後は、集合写真を撮って12：05に下山開始です。来た道を引き返します。下山のスピードは速く、13：35にバスが待つ旧白河高原スキー場の駐車場に戻ってきました。

前岳の紅葉をバックに(11：55) ▲

登山の後は温泉です。福島県西白河郡西郷村の新甲子温泉「ちゃぽランド西郷」に行き、13：55～15：00まで温泉に浸かり、ビールを飲んで登山の疲れをとりました。

その後は、コンビニでお酒とつまみを買って、帰路につきました。15：40に白川ICから高速に入り、行きと同じルートで帰りましたが、バスの中では飲みっぱなしで、19：05にせんげん台に戻ってからは、いつもの反省会です。6人でいつもの中華食堂で反省会をして20：30の帰宅でした。

天気も良く、紅葉を楽しむ事ができました。リーダー、会計の3人の|藤さんはじめ皆様ありがとうございました。

2015年11月山行の案内

秩父御岳山 1,081m（秩父市）

秩父御岳山 →

11月の山行は電車利用です。埼玉県民の日、フリーキップを利用して秩父に行きます、秩父御岳山は江戸末期に大滝村の出身である普寛導師が開山したことで信仰の山で知られています。杉林の美しさと山頂からの両神山や浅間山などの展望が素晴らしく紅葉も楽しめます。リクエストがあり悠遊組を設けましたましたので、山組は一部鎖場もあり6時間歩程がきつい方は悠遊組に変更できます、参加追加も募集します。（要連絡藤井迄）

「埼玉県のルーツ探訪」悠遊コースの案内 皆さんのリクエストに答えて「悠遊コース」を設けました。来月山行日の11月14日は「埼玉県民の日」です。この日は公共機関や施設などが超格安になっています。このご厚意に答える形で、埼玉県民の日を「さいたま」のルーツを探る小旅行にしては、と考えました。そのためコースには、地球誕生・恐竜時代・秩父古生層・縄文・弥生・古墳時代、「さきたま」誕生と、埼玉の成り立ちを知るものとなっています、が、食欲の秋です。美味しいものも腹いっぱいに食べてみてはいかがでしょうか。

【日　時】 11月14日(土)

【集　合】 **羽生駅(秩父鉄道改札前)6時40分集合、**(6時46発三峰口行に乗車)
参考(せんげん台5：58発、武里5：53発、春日部6：03発)～羽生6：35着
：**山組下車(終点の三峰口駅8：42着)**　8：45出口に山組再度集合

【行　程】 **山組：**歩程約5.5 ～ 6.0時間(三峰口～町分登山口～タツミチ～分岐～秩父御岳山頂～
悠遊組：羽生駅6時46分発→**行田市駅6時59分着**(下車)歩いて…『のぼうの城』で有名になった忍城…水城公園…さきたま古墳群に(古墳を見て)…国宝・金錯銘鉄剣を展示をしている「さきたま史跡の博物館」に。無料レンタサイクルで行田市駅に。台数が足りなければタクシー利用(バス代より安い)→**行田市駅10時13分発→御花畑駅11時31分着**…お蕎麦屋(昼食)…「秩父祭会館」…**秩父駅14時17分発→和銅黒谷駅14時26分着**…日本最古の通貨「和同開珎」・「聖神社」…**和銅黒谷駅15時26分発→上長瀞駅15時37分着**・夜が冷えるために温かい「きのこそば」を…パレオパラドキシア(秩父に棲んでいた恐竜)を展示している「埼玉県立自然の博物館」…目の前には、この日からライトアップする、月の石もみじ公園…宝登山神社へ。昼と全く違 う真っ赤なモミジが闇夜に浮かぶ様はまさに妖艶。**長瀞駅19時4分発→春日部駅21時37分・せんげん台駅21時43分・越谷駅21時48分着。**

【持 ち 物】 滑りにくい登山靴、昼食、飲料水、雨具、替え着、防寒対策など、立ち寄り湯は時間的に難しいと思います。

【申 込 み】 藤井リーダーまで(携帯電話番号にショートメール等で連絡ください)

【リーダー】 山組：藤井 一義、　悠遊組：伊藤 松雄

第20回「遊友ハイキングクラブ総会」の案内
日時　2015年12月12日(土)17時30分開場　18時開会
会場　春日部市商工振興センター　202号室(2階)